

# 黄耆建中湯について

臨床 § 方 劑



# 体表層の小さな海

われわれ生き物が海から陸に上がってくるときに自分の身体の中に小さな海を封じ込んで体表層で守ってきている。

そうすると生体防御の一番の出発点はこの体表層の仕組みということになるだろう。



(九州大学生体防御研究所教授 野本亀久雄)



# 桂枝湯は皮膚を潤す

- 芍薬の増量と膠飴で小建中湯
- さらに黄耆でパワーアップ



# 黄耆建中湯

- 桂皮4、芍藥6、甘草2、生姜1、大棗4、膠飴10、黄耆4
- 桂枝9、芍藥18、甘草6、生姜9、大棗4、膠飴30、黄耆9
- 温中補氣、和裏緩急
- 【主治】虚勞不足、諸不足
- 酸甘化陰、辛甘扶陽



# 小建中湯の成り立ち

陽(気)

陰(血、津液)

生姜

大棗

膠飴

交感神経系

副交感神経系



# 小建中湯は腸管粘膜を潤し、 傷ついた粘膜を修復する

- 小児の虚弱体質
- 反復性の腹痛
- 便秘（潤腸通便）



# 黄耆建中湯は汗腺の開閉の機能を高め、排膿の力を高め、皮膚の修復を助ける

- 小児のアトピー性皮膚炎
- 小児の皮膚の乾燥
- 尋常性痤瘡
- 褥瘡、皮膚の潰瘍
- わきが



人参の働き

補気作用

体力の低下・衰弱・疲労を回復する

健脾作用

胃腸の機能を回復し心下の痞えを取り除く

安神作用

神経衰弱による精神の疲労を回復し、意志を強くする

止渴作用

体液の消耗による口渇を止める

黄耆の働き

強壯作用

慢性の疲労・衰弱・内臓下垂・神経麻痺を治す

利水作用

体表の水を取り除く

止汗作用

表虚による多汗・盗汗を治す

排膿作用

排膿を促進し,肉芽形成を促進する



# 鳥肌状の皮膚

- 黄耆建中湯による改善例が多数存在する
- 桂枝湯のみで改善した例もある
- 年齢が低いほど改善は容易である



# 傷ついた消化管粘膜と膠飴

- 【性味】甘、微温
- 【帰経】脾、胃、肺
- 【効能と応用】補虚建中、緩急止痛、潤肺止咳



黄耆

桂枝



昇

動悸

生姜

甘草

大棗

腹痛

膠飴

芍藥



降



出入

桂枝

黄耆

生姜  
甘草  
大枣  
胶飴

桂皮

芍药

表裏

内外



# 鼓舞と弛緩

- 鼓舞
- 桂枝（皮気）、桂皮（肌気）、黄耆（肺気、肝気）、生姜（胃気）
- 弛緩
- 芍薬、甘草、大棗（心気）



# 黄耆

- 起源) マメ科キバナオウギ、ナイモウオウギの根茎
- 性味) 甘、温 帰経) 脾、肺
- 効能)
- 補気昇陽 元気がない、中気下陷。(四君子湯、補中益気湯) 冷えに附子、乾姜と。大量出血後の虚脱に当帰補血湯
- 補気摂血 気不統血による出血(帰脾湯)
- 補気行滞 気虚血滞(血痺)によるしびれ、運動障害、半身不随などに(黄耆桂枝五物湯)
- 固表止汗 (玉屏風散)
- 托瘡生肌 (托裏消毒飲)
- 利水消腫 (防己黄耆湯)



# 托裏排膿

『神農本草經』では人参の補益を多く記しているが、黄耆については「体表付近の化膿を治す」という記載が主で、末尾に「補虚」という一言があるのみ。



# 参耆剤の働き

## 人参は中を固め、黄耆は巡らす

人参は、いかに胃気を補い守るか、いかに中をしっかりと固めていくかという目的で使われているのに対して、黄耆は動かして「流す」という点に特徴がある。水穀を食べると、後天の精として正気を生むが、それを溜め込むと痰を生じるため、溜め込まないようにするために黄耆が必要になってくる。「溜める」と「流す」という両極端の面白味があるのが人参と黄耆の組合せである。人参によって生まれた正気を黄耆が昇発させることによって血も生んで流れていくというのが参耆剤である。



# 漏れを防ぐ黄耆

- 穴の開いた水袋のたとえ
- 袋の中にエネルギーを蓄えた水が入っていて、その袋には穴がいくつもあいている。人参は胃気を中心に五臓を補ってエネルギーを高める働きがあるが、せっかくの元気も袋に穴があいていたら水のように漏れてしまう。そこで黄耆が皮膚の機能を高めて、元気が漏れ出るのを防ぐ働きをする。



# 黄耆は巡らせた上で固表止汗する

林賢濱は黄耆の働きを、配合される薬との組合せによって「補」「昇」「散」「行」「固」の5つに分類している。この中の「散」と「行」は「流す」ことに通じる。「散」は元気や真気を全身の筋肉や腠理・経絡・臓腑に布散する、「行」は体表経絡にかかわらず臓腑にも真気を通達し、瘀血や水の邪をとるということで、この2つの働きによって「流す」という言葉の意味が明確になってくる。人参で蓄えたエネルギーを四肢や臓器に流す、巡らせるという働きを意識するとよい。そして最後に、黄耆は湊理を引き締め、水漏れを防ぐ固表止汗・固衝止血の効果を併せ持つ。



# 23才女性、指先の湿疹

【現病歴】10代後半から指先の爪の周りの湿疹があり、しばしば化膿する。低体温で35度台のことが多い。初日と二日目の月経痛強度。

【現症】身長155cm、体重45kg。皮膚は浅黒い。月経周期は28日~40日。不順。量は少なく2,3日で終わる。常に冷えている。脉は沈、細。腹部は痩せて、腹力やや弱。

【経過】黄蓍建中湯12g合当归芍薬散5gを処方。この処方で月経痛改善し、指の湿疹は完治。体温も36度台になる。3か月後妊娠判明し、無事男児出産した。



# 14才、女児 レックリングハウゼン病

- 低身長、低体重、皮膚病変にて大学病院通院中。風邪をひきやすく、疲れやすい。
- 身長142cm、体重35kg。皮膚浅黒く、斑状の色素沈着多数。乾燥している。しばしば体中に痛みを感じる。脈は沈細。舌は淡紅色で白苔少量。月経は30日周期。腹部は腹直筋の緊張があり、腹力やや弱。



# 経過

以上の所見より黄耆建中湯9g分2、当帰芍薬散1.5g  
安中散0.5gを朝食後一回投与。この処方では倦怠感  
著明に改善し、風邪をひかなくなり、当帰芍薬散の  
併用で身体の痛みがなくなった。指先のアトピー様  
の皮膚病変も改善し、経過観察中。当帰芍薬散だけ  
ではむかつきがあるため、安中散を配合している。



# 5才 男子

- 蕁麻疹が太もものうらから始まり全身に広がる。ザジデンシロップ無効、セレスタミンを1週間飲んだが、くすぶっている感じ。
- 黄耆建中湯6g分2でまったくでなくなった。



# 27才、女性 アトピー

- 2年前よりまぶた、首、肘の内側、膝の裏、下肢に湿疹、痒みがあるとのことでX年2月初診。
- 現症 169cm、59kg。色白。脈は沈緩弱。舌は淡紅色、舌静脈怒張あり。腹部は腹力中等度で腹直筋の緊張あり。皮膚の表面は乾燥しているが皮下はぼったりした感じ。目にクマがあり、疲れやすい。職場が乾燥して目が乾燥する。



# 経過

- 黄耆建中湯12g、桂枝茯苓丸5g一ヶ月後皮膚の乾燥、痒み改善。
- 4月に桂枝茯苓丸を当帰芍薬散に変方後、皮疹悪化。
- 5月より消風散に変方。痒み改善したため7月より黄耆建中湯単独で処方。甘いものを控えて、身体が締まってきた。
- 9月より膝の裏の痒み、下肢の湿疹と痒みがあるため猪苓湯5gを追加。一ヶ月後下肢の湿疹も消失したため、10月末で治療終了。



# 考察

- 本例は疲れやすく気虚の傾向があり、皮膚も表面は乾燥しているが、皮下に水滞があり、衛気が十分にめぐっていない印象。
- 黄耆建中湯で衛気がめぐった結果、皮下の浮腫が改善し、皮膚表面に潤いが出てきて皮膚症状が改善した。目の周囲も気血がめぐりにくいところであるが、桂枝茯苓丸で血も巡らせた結果。目のクマ、目の周囲の肌荒れも改善した。
- 下肢の湿疹は脾腎陽虚による水滞が考えられ、標治的に猪苓湯を追加投与することで治癒した。



# 38才、女性、ガングリオン

【現病歴】13年前より通年性アレルギー性鼻炎治療中。X年春より右手首にガングリオンができ、7月末に注射器で廃液したがすぐに元に戻った。以前より違和感が強くなり神経に触らないか心配になった。人前、人混みが苦手、緊張すると汗が止まらなくなる。

【既往歴】2~4歳、気管支喘息。

【現症】身長170cm、体重54kg。脈は緩弱。舌は淡紅色で、胖大、歯根あり、薄い白苔を認める。腹部は痩せていて腹力2/5。軽度の腹直筋緊張を認める。皮膚はやや乾燥している。右手首の甲に直径13mmのガングリオンを認める。

以上の所見より、営衛不和、脾肺気虚水滞として黄耆建中湯エキス12g分2とヨクイニンエキス6g分3を処方する。1週間後ガングリオンは完全に消失した。



# 薬 まとめ

- 小児が黄耆建中湯を飲むとプヨプヨとした肌が引き締まり身が詰まったカニのように骨太の身体になる。
- 黄耆建中湯は肌膚の水滞をとる。それによって皮膚への栄養の供給も改善し、皮膚をうるおし、アトピー性皮膚炎にも有効となる。
- 腸管粘膜の発達を促進し正常化することによって、腸管免疫の発達、アレルギー体質の改善に役に立つ。
- 心不全で利尿薬を使い、脱水傾向にあり肌膚の水分もなく干からびた田んぼのような状態では黄耆建中湯は無効で小建中湯の適応となる。
- 喘息の発作期など炎症がある場合、すなわち熱証の所見がある場合は黄耆や桂枝の温性が邪魔をするので、黄耆建中湯を使わないほうがいい。
- 遷延性中耳炎において黄耆建中湯合辛夷清肺湯を使う場合、3か月程度使用し続けることによって改善する場合がある。炎症がおさまれば黄耆建中湯単独で経過をみて廃薬する。

